

# 第33回全国公民館セミナー 「これからの公民館運営を考える」



# 富塚協働センター

## の取組事例

~地域コミュニティの原点は楽しい時間を共有すること~

令和4年1月28日

コミュニティ担当職員 野嶋 京登



SDGs 未来都市・浜松  
市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」

1

## 浜松市の特徴

- 人口約80万人、日本で2番目に広い市域（1,558km<sup>2</sup>）を有しており、伊豆半島よりも大きい。
- 浜松駅を中心とした都心部だけではなく、海・山・川・湖などの自然も併せ持つことから「国土縮図型都市」と言われる。
- 東京や大阪まで新幹線（ひかり）で約90分であり、大都市圏へのアクセスが良い。
- 何事にも果敢に挑戦しようとする気質「やらまいか精神」が根付いている。
- 自治会加入率は全国トップクラス約95.0%（令和3年度）
- 「うなぎ」や円形に焼き上げられた中にゆでもやしが添えられている「浜松餃子」が有名である。
- 最近では、さわやかの「ハンバーグ」も有名である。

区割り図



浜松は日本一暮らしやすい街であり、「本州最後の楽園」

2

# 富塚地区の特徴



- JR浜松駅から車で約20分。三方原台地の南端に位置している。
- 富塚地区は、富塚町と和合町西和地区から成り立ち、6つの自治会がある。
- 富塚地区の人口は約19,000人。高齢化率27.0% ※令和3年4月1日現在
- 昭和40年ごろから宅地開発が進み、ベッドタウンとして発展し、多くの団地がある。
- 住民の憩いの場である「佐鳴湖」があり、自然と調和した街並みとなっている。
- 観光・産業道路として大きな役割を果たしている主要地方道館山寺・鹿谷線（通称：館山寺街道）が地域を通っている。また、近くに浜松オートレース場や航空自衛隊浜松基地がある。

3

## 富塚協働センター 施設概要



- 昭和58年開館。昭和61年附設体育館設立。
- 敷地面積4,502m<sup>2</sup>（本館978m<sup>2</sup>、体育館1,206m<sup>2</sup>）
- 施設設備 ホール・講座室・和室・児童室・小会議室・料理教室
- 協働センター内に富塚地区社会福祉協議会の事務局「ふれあいコーナー」がある。
- 平成25年度から地域づくり強化のため、「富塚公民館」から「富塚協働センター」へ名称変更した。
- 職員9名（所長1名、コミ坦1名、再任用1名、生涯学習2名、証明発行4名）

4

# 事業紹介



## (1) 地域づくりの拠点としての役割

まちづくり活動支援、情報提供や情報交換、地域課題に向けた取り組み、各団体との連携や支援

## (2) 生涯学習の拠点としての役割

講座（浜松ヒューマンセミナー、アクティブ・シニア講座、地域文化セミナー、子ども講座、大学連携講座、子育て講座など）

## (3) 窓口サービスを提供する役割

住民票などの発行

5

## 浜松版パーラー公民館 あおぞら協働センター



6

# パーラー公民館での研修

## ～若狭公民館から学んだこと～



令和元年7月27日開催  
あけぼの公園

「パーラー公民館」

沖縄県那覇市にある若狭公民館が定期的に開催している移動型公民館。

※現在は、曙小学校区まちづくり協議会が主催している。

7

# あおぞら協働センターって 何をやるところなの？？

答え

# 何もしない…

「人が集まると何かが起こる」がコンセプト！！

クリエイティブな  
ワークショップの開催

8

# 浜松版パーラー公民館 あおぞら協働センター 市民協働で！！

「パーラー公民館」研修について富塚地区各種団体に話をしたところ、【土曜講座】を行っている『富塚ドリームサポーター連絡協議会』から「浜松でも行いましょう！」と声を掛けられる。さらに、いろいろな人と話をするうちに、**最近の子どもは外で遊ばない・幅広い世代交流が少ないといった課題が見えてきた。**

こうして、浜松版パーラー公民館実現への第一歩が始まった。

そのほか、民生委員、コミュニティ・アシスタント、シニアクラブ、体育振興会の方々へ声をかけ、当日の協力体制を整える。また、富塚協働センターを中心に活動している「親子で沖縄伝統文化を学ぶ」紫欄（しらん）さんにエイサー踊りや三線披露など演出を依頼した。

本来は、**何もしない**のがパーラー公民館であるが、第一回目はイベントを組んだ。名称は、明るく・未来へのイメージから「あおぞら協働センター」とした。

そして、行政主導型ではなく、**市民協働**で行うことに主眼を置いた。

9

## あおぞら協働センターの初回

### ○エイサー踊り

沖縄伝統文化受講生によるエイサー踊り

### ○ミニ子ども食堂「焼きそば」

高校生以下無料の焼きそばを提供

### ○いきいき体操

体操講座を開催

高齢者も子どもたちもみんなで体操

### ○紙芝居の上映

富塚中学生が佐鳴湖にまつわる紙芝居を作成

### ○沖縄の竹馬「やっこ」あそび

学校支援コーディネーター発案

普段、あまり外で遊ばない子たちたちに、  
外遊びの楽しさを伝えた。



日時：令和元年 11月16日（土）午前11時～午後2時（雨天中止）

会場：佐鳴湖公園（北岸芝生広場）浜松市中区富塚町 5147-4（北岸管理棟の前です）

#### タイムスケジュール

基本的に自由参加です！！存分に「つどう・まなぶ・むすぶ」で楽しんでください。  
11:00～11:10 開会式  
11:10～11:15 エイサー踊り披露

11:15～12:00 「やっこ遊び」※「やっこ」とは、竹馬遊びのようなものです。

12:00～13:00 ミニ子ども食堂（焼きそば）※高校生以下無料

13:00～13:20 いきいき体操

#### あおぞら協働センターってなに？？

沖縄県那覇市にある若狭公民館では「パーラー公民館」というものを定期的に開催しています。このパーラー公民館は、公民館の中、パラソルの下で、椅子を囲く・ゲームをする・地域の方々とおしゃべりなどをしています。地域コミュニティが希薄な近年において、パーラー公民館は居場所づくり機能などを果たす役割は大きく、第70回全国公民館公民館表彰が最優秀賞など様々な表彰を受賞していました。

今年の夏、このパーラー公民館に富塚協働センター・コミュニティ担当職員（野崎）が参加した感想として、「地域コミュニティの原点は楽しい時間をみんなと過ごし、人との交流を行うこと」と実感いたしました。

このたび、浜松版パーラー公民館として「あおぞら協働センター」を富塚ドリームサポーター連絡協議会と共に開催することになりました。

楽しい時間を参加者全員で共有したいのでどちらも大歓迎です！ぜひお越しください♪

#### コンセプト

- ・地域コミュニティの原点は、楽しい時間をみんなと過ごし、人との交流を行うこと
- ・入りやすく、抜けやすい
- ・主催者も参加者も「ゆるーく・気楽に」

#### 主催

浜松市富塚協働センター・富塚ドリームサポーター連絡協議会 共催事業

#### お問合せ先

浜松市富塚協働センター（電話 472-7682） 当日の連絡先：野崎基文（電話 090-2348-9306）

#### その他

- ・当日の風景は浜松市の広報誌等へ掲載する場合がありますので、ご理解の上、参加してください。
- ・なるべく徒步か自転車にてお越しください。

10

# 当日の様子(1)



開会式



親子でエイサー踊り①



みんなで輪になって踊りました



親子でエイサー踊り②

11

# 当日の様子(2)



「やっこ(沖縄の竹馬)」  
遊びの指導者さん



子供たちによる「やっこ」遊び



ミニ子ども食堂



紙芝居

12

# 出会いがありました！



13

## マジシャンによるマジック披露！ 「人が集まると何かが起こる」



写真的の男性は佐鳴湖公園に牧之原市から、紅葉を見に来ていたのです。  
偶然にも「あおぞら協働センター」の旗を見て、声をかけてきました。  
「このイベントは何ですか？」…「基本的には何もしないんです。集まった人たちで何か  
が起ころのがおもしろいんです。」と説明しました。男性の職業はなんと「マジシャン」！！  
コンセプトに共感し、即興でマジックを披露してくれました！！

14

# 令和2年度 あおぞら協働センター



- 試行的に行なった「あおぞら協働センター」で手ごたえを感じ、令和2年度から3年間本格的に開催する。
- 新型コロナウイルス緊急事態宣言後の、令和2年7月からスタートした。

15

## 令和2年度 あおぞら協働センター ワークショップ



- 令和2年度の開催状況  
14回開催（令和2年7月～令和3年2月）  
延べ参加者数531名
- 真冬も開催するも・・・遠州のからつ風の寒さが課題であった。

16

# 令和3年度 あおぞら協働センター ワークショップ



17

# 令和3年度 あおぞら協働センター ワークショップ



18

# 令和3年度 ほしざら協働センター 焚き火



- 「最強の共有空間は、焚き火だ！」というあるアーティストの言葉をもとに、真夏に焚き火を行った。
- 虫取りや佐鳴湖にまつわる話、サプライズで**星空観察**が行われ、名前のとおり「ほしざら協働センター」となり、楽しいひとときを共有することができた。

19

# 令和3年度 あおぞら協働センター ワークショップ



- 令和3年度の開催状況  
21回開催（令和3年6月～令和3年12月）  
延べ参加者数1,060名
- 今年度はほぼ毎週開催しており、顔の見える関係づくりの一翼を担った。



20

# あおぞら協働センター 開催情報



開催回数・延べ参加者数の年度比較

	令和2年度 実績	令和3年度 実績
開催回数	14回	21回 ↑
延べ参加者数	531名	1,060名 ↑

- ・延べ参加者数が大幅に増加した。
- ・令和3年度は開催期間中ほぼ毎週行った。



21

## あおぞら協働センター

地域コミュニティの原点は、楽しい時間を共有すること！！



- ・出会い（日常的に幅広い世代が集まり、声をかけあう機会が増えた。）
- ・同じ時間を共有することで、地域住民同士のつながりが生まれた。
- ・外で遊ぶ機会が増えた。
- ・出会った方が、協働センターで開催する縁日でウォークラリーを作成してくれたり、即興で音楽を披露してくれたりすることあった。  
そのほか、後日、ワークショップの講師としてきててくれた方もいた。
- ・子どもや地域の方が片付けなどを手伝ってくれるようになった。
- ・毎回参加することが楽しみ、もっと続けて欲しいという声が多い。

まさに、公民館の原点である

「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の実践ができた

22



# 地域住民憩いの場「佐鳴湖」



- 佐鳴湖は、川で浜名湖につながる汽水湖で、周囲6kmである。
- ウォーキング、ジョギング、釣りなどを楽しむ方が多い。また、美しい景観やカワセミなどいることから写真撮影している方も多い。
- かつては、化学的酸素要求量（COD）の湖沼水質調査において、日本で一番汚い湖として有名であったが、令和2年の水質調査によると、市が正式に測定を始めた昭和49年以降で最も汚れが少なくなった。

23



# 佐鳴湖「ごみ問題」



喫緊に  
解決すべき  
地域課題

湖面に行くと・・・

- **令和2年5月、衝撃的な「出会い」があった。** 令和2年2月から住民の憩いの場である「佐鳴湖」や「段子川」のごみ拾いボランティアを行っている佐鳴湖・段子川ゴミバスターズ「福島正義」さんが突然来館し、佐鳴湖ごみ問題を嘆き訴えた。
- 落ちているごみはペットボトルが主流、マイクロプラスチックもあった・・・
- 佐鳴湖を取り巻く近隣の同僚職員に連絡し、福島さんへの支援や打開策を一緒に考えた。
- 初めての相談にもかかわらず、2時間以上話をした。

24

# ごみ・環境・SDGsについて ごみゼロフェスタ



初開催



- 本センターだけではなく、他の3つの協働センターにも「ごみ問題」の掲示を行った。
- 佐鳴湖・段子川ゴミバスターズ「福島正義」さんの活動に感銘を受け、ごみ・環境・SDGsなどを地域住民が考えるきっかけとなるイベントを企画した。
- 【ご・み・ゼロ】の語呂に合わせて令和3年5月30日に開催した。

25

# ごみ・環境・SDGsについて ごみゼロフェスタ トークセッション



＜重要＞  
モラル向上  
目指そう！！

佐鳴湖  
ごみ問題  
共有化



- 各方面で活躍する方々に登壇いただき、トークセッションを実施した。テーマは、「佐鳴湖などにごみを捨てさせない方法について考える」で行った。
- ごみというイメージは地味だったので多くの若者に来ていただき、この問題について何ができるのか考えた。

26

# ごみ・環境・SDGsについて SDGs新スポーツ「プロギング」



- **プロギング**とは、ごみ拾い (Plocka Upp) とジョギング (Jogging) を合わせたスウェーデン発Newフィットネスのこと。
- 走って健康に、拾ってエコに、楽しい交流をテーマに、地球を足元から治すチカラを秘めた**SDGs新スポーツ**！
- プロギングジャパンの常田代表のもと、参加者はプロギングを楽しんだ！
- 参加したある男性は、その後「プロギング浜松」を立ち上げ、活動中！

27

# ごみ・環境・SDGsについて アーティストによるアートの力



実際に落ちているごみが…

- 福島さんが実際に拾っているごみを洗って、アーティスト (Bob ho-hoさん) によるワークショップを開催した。
- 大変なお願いであったが、引き受けてください、多数の親子連れが参加した。

28

# ごみ・環境・SDGsについて 佐鳴湖・段子川ゴミバスターズと市長へ報告

11 住み続けられる  
まちづくりを

12 つくる責任  
つかう責任

14 海の豊かさを  
守ろう



- ごみ拾いやSDGs活動を行政と一緒にやって行っていることについて、福島さんや環境部と同行して市長へ表敬訪問した。
- 福島さんと行政が協働して行っていることを説明できた。市民協働は大切であると実感した。

29

## ごみ・環境・SDGsについて ハロウィン・プロギング

11 住み続けられる  
まちづくりを

12 つくる責任  
つかう責任

14 海の豊かさを  
守ろう



- ごみを捨ててしまうイメージが根付いてしまった「ハロウィン」と「プロギング」を掛け合わせて、初めて開催する。
- 地元の体育振興会などと協働して行い、小学生を中心に関117名の参加、ごみ15.2kg回収することができ、地域の課題について理解を深めることができた。
- こうした楽しみながら環境学習を行うことは重要と考え、今後も開催したい！

30

# 地域の情報共有 富塚自治会連合会会合へ出席

- 毎月、月末に開催される富塚地区の自治会連合会に出席している。
- 地域情報を共有するとともに、地域づくりのアドバイスを行った。
- 自治会長からの相談を受け、下記の事項について調整を行った。
  - ・戦略的な空き家対策
  - ・認可地縁団体（法人格）の取得
  - ・自治会規約等の改正
  - ・自治会会館の運営方法
  - ・防災訓練の開催方法 など



地域の  
エキスパートの  
みなさんです！



31

## 地域を巻き込んだイベント 夏祭り

### 【課題】

- ・富塚地区には夏祭りを開催している自治会は6自治会中2自治会のみである。
- ・かつては、どの自治会でも夏祭りを開催したが、役員の負担などから開催を見合わせた。



### 名称変更 各種団体との協働

### 【解決】

- ・協働センターで行っていた「子どもフェスタ」を「夏祭り」に改め、老若男女楽しむ形にした。
- ・新たな「夏祭り」に従来は参加していなかった地域の各種団体へ協力依頼を働き掛けた結果、「子どもフェスタ」の5倍以上の来場者があった。



32

# 学校・地域の橋渡し コミュニティ・スクール連携

## 【背景】

- 平成28年度、富塚地区小中学校3校が浜松市  
**コミュニティ・スクール推進モデル校**に指定された。



- 学校支援コーディネーターが中心となり、運営を行い、協働センターとも連携する。

### ・地域の学べる場「**土曜講座**」

学校では学べないことを地域の方々が講座を企画する。土曜講座は、運営資金は自ら確保しなければならない。協働センターで開催された夏祭りで物販スペースの提供を行った。運営方法についても打合せ等を行った。

- 地域について情報共有や学校運営協議会に出席した。



33

# 若者と一緒に！若者ボランティア 「コミュニティ・アシスタント」

協働センター利用者は高齢者が多く、高校生など若者が地域活性化イベントに携わる機会が少ない。



中学生ボランティアで活躍した生徒を卒業後、「**コミュニティ・アシスタント**」として登録し、地域活性化に携われる様にした。

- 現在は高校生13名・専門学生1名の合計**14名**で活動中。
- TOMITSUKAえんにちに参加し、模擬店運営を行った。子どもたちが喜ぶ、インスタ映えするブースを作成した。
- 子供会のクリスマス会でもサンタクロースになり、子どもたちに楽しいひとときを与えた。
- 夏祭りでポップコーン・トロピカルジュースの販売などを行った。
- この活躍により、地域が活性化され、魅力のある知育づくりの実現ができる。
- 令和3年2月、冬のおばけやしき「忘れられた人形」を1週間かけて準備を行い、開催予定。



34

# コミュニティ・アシスタント 青少年の表彰受賞



■ 令和3年12月、コミュニティ・アシスタント5名が「青少年の表彰」（善行賞）を受賞した。

35

## 子供会 加入率増加対策 意見交換会開催や活動の支援

### 【課題】

- ・共働き、子供会役員の負担、イベント企画が大変などの理由で子供会加入者が減少していると相談があった。



活動支援  
コミュニティ・アシスタントと一緒に

### 【解決】

- ・「芋掘り会」や「合同クリスマス会」を企画し、開催した。
- ・子供会役員と一緒にイベント考えることで負担を軽減することができた。
- ・若者ボランティア「コミュニティ・アシスタント」と活動することで、新たなつながりができた。



36

# 防災意識向上！ 生きる知恵の防災合宿

## 【課題】

- ・平成30年10月、台風24号が市内各所に被害をもたらした。
- ・富塚地区も停電が数日間続き、自然の猛威を感じた。
- ・子供たちの防災に関する自助の考え方方が弱いと地域から指摘があった。



## 防災合宿の開催

## 【解決】

- ・子供たちに防災合宿を通じて「**自助**」の考えを学ぶとともに、地域の自主防災隊から地域コミュニティにおいて重要である「**共助**」についても学んだ。



37

# ブラジル人学校の移転をきっかけに！ 国際交流！



- ◆ 令和2年4月、富塚地区にブラジル人学校「エスコーラ アウカンセ」が高丘地区から移転してきた。
- ◆ 浜松市の施策として「多文化共生」を謳っている。
- ◆ 地域コミュニティにおいて外国人との共存は非常に重要だと考え、理事の方と打ち合わせを行う。
- ◆ 令和2年度は新型コロナウィルスの影響からイベント等はできなかったが、令和3年度は、夏祭りにブースを出店し、的入れゲーム（ボカデパリアス）を行った。

38

# 新たなつながり コミュニティ担当職員とレツツクッキング

- 料理で地域交流を深める講座を開催。
- 内容は、ある有名カレーラーを「レシピどおり」作成するとどうなるかというもの。
- 12名が参加した。
- 会食から地域課題を知れたり、参加者どうしの連絡先交換があったりした。
- 地域コミュニティは、「**出会い**」が最も大切だと痛感した。



39

## コロナ禍での取組 リモート講座

新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言中は、貸館をはじめとする生涯学習業務ができなかった。



### デジタル技術の活用

- 利用者から、何か少しでも講座ができる環境が欲しいという声があり、試行的にリモート講座を行った。
- 利用者から様々な感想をいただいた。今後も、より良いリモート講座ができるように検証を行っていく。
- オンライン講座は、内容により、向き不向きがあるうえ、高齢者だと活用しにくいので、ココをどうするか思案中である。



40

# コロナ禍での取組 TOMITSUKAえんにち

- ・卒業式、入学式、浜松まつり、花火大会、秋祭り、地域の運動会など**すべてが中止**になった。
- ・自治会長から子供向けに、何かイベントができるか相談があった。



## 相談内容の実現

- ・調査を進め、下記の内容なら**開催可能**と判断した。
  - ・完全事前申込制（学年ごとの入替制）
  - ・食べ物なし
  - ・間隔をあけた模擬店
  - ・出入口一か所
  - ・入口にて検温実施
  - ・消毒液の配置 など
- ・令和2年10月25日、晴天のもと開催でき、参加し、子供たち（参加者225名）に楽しい時間を提供することができた。



41

## これからの公民館運営

### 地域コミュニティの希薄化

近所付き合いが減り、顔の見える関係がなくなってきた。インターネットで調べれば、何でもわかる時代。そして、プライベート優先の考え方が定着した。

### ライフスタイルの変化

金銭的余裕がなくなったため、共働き世帯の増加。そのため、時間的な余裕までなくなってきた。

### 少子高齢化・70歳現役社会

子どもが少なくなり、高齢者が増加する高齢社会の到来。70歳まで現役で勤務する人が増加した。

### 新型コロナウイルスにより価値観の変化

ものごとの「そもそも論」を考える人が増加し、「必要」や「不要」の判断をする人が増えた。正しいのか正しくないのか一億総評論家状態。言ったもの勝ち・・・

### 自治会・民生委員などをはじめとする役員の負担

「得」か「損」で考えてしまう人が増えてきた。「負担>>やりがい」イメージ先行報酬が少ない割に、負担が大きいといった声が多い。

### 我々のような職員の役割

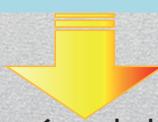
一緒に汗をかき、ともに歩んでいくことが重要

いろいろな方と意見交換して、協力していくことが求められている。

社会情勢  
の変化

コレだ!!

「市民協働」



42

# これからの公民館運営

## 数多くの人を知る

多くの地域住民の方とコミュニケーションを図る。大人に限らず、子どもたちにも積極アプローチする。みなさん、貴重な情報を持っていますよ！！なによりも、協力いただけの方をたくさんつくること。これは、地域づくりの原点です。

## 地域を好きになる

風土・文化・商店・人口などのエリア特性を知る。

## 積極的に参加

地域で行われるさまざまなイベントに、なるべく顔を出しましょう！

## 己自身の改革

昨今の社会情勢はめまぐるしく変化しております。**先入観はすべてなくし**、いろんな方と連絡を取りながら、**正しい情報を得てから、判断して、事業を進めること**。**地域の温度**を確認し、キーパーソンとよく相談しよう！

そして、**信頼**される地域のコーディネーターになりましょう！